

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1346 2025/08/07 (THU)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照已)

被爆者の思いを受け継ぐ高校生たち

原爆犠牲ヒロシマの碑 碑前祭

「第44回原爆犠牲ヒロシマの碑・碑前祭」が5日7時30分より開かれま



した。これは高校生たちが中心となってこの碑は建立されました。この碑は、一般の碑とは違って碑を建てること自体が目的ではなかったのです。当時高校生たちは平和公園の東側にある元安川で、原爆瓦を発見し、集めて原爆被害の



実相を明らかにする活動をしていました。しかし広島市は、そこを「美観整備」を名目にして護岸工事をするとう決めたのです。高校生たちはこの計画に反対し署名活動を行いました。護岸工事は強行されました。それならば「モニュメントをつくろう!」と全国に呼びかけ、約4,000万円の募金が集まってできたのが、「原爆犠牲ヒロシマの碑」の碑です。

天がまっかに燃えたとき/ わたしのからだはとかされた/ ヒロシマの叫びをともに/ 世界のひとよ

「原爆犠牲ヒロシマの碑」より

今年被爆体験を話してくださったのは、2歳で被爆された山田寿美子さん。「私の家は爆心地から0.7kmの十日市にあり、両親は乾物問屋を営んでいました。原爆投下1ヶ月前頃に、私と姉(当時(20才と18才)は、爆心地から2.



3km 三滝町にある母親の実家に疎開していて、そこで原爆にあったのです。2.3kmとはいえ窓ガラスや屋根瓦が飛び散って、顔や頭に突き刺さり、屋内に居ても爆風で弾き飛ばされたようです」と当時の様子を話されました。「アメリカは原爆投下を謝罪せず、日本政府も求めている」と告発し、最後に「世界や日本の戦争被害者と『戦争NO! 核兵器NO!』の声を今こそ出していくことが求められています」と訴えられました。その後参加者は、原爆瓦の再現実験と署名活動を行ないました。

(望月照已)



文庫

▼昨日、福山新婦人の皆さんが、元町高校の原爆の絵(デジタル版)です。A3判程の大

き借りて、神辺町交流館で展示会を開かれていました▼紹介され、孫と一緒に観に行きました。それまで、私たちが展示してきた写真パネルも同時に展示してありました▼高校生たちの絵は、それらの写真が示す

「原爆の悲惨な結果」を同じ迫力で観る者に迫ってきました▼焼けただれた皮膚が手の先から流れて垂れさがったまま避難している人の絵は、そのつらさと悲しさが突き刺さってくる様でした▼そのヒバクシャのお話を聞き描き、何度も疑問や自問を繰り返し、今にもこの被爆直後の人が動き出すように描き切る為にどれ程の、葛藤があったのだろうと▼それを乗り越えて描き切った事に、唯々見つめることしか出来ませんでした▼それに比べて、参政党の議員が発した「防衛力として核兵器は、安上りだ」という言葉のペラペラ感を思い出します▼言葉は、精いつばいの思いや感情を込めて、想像力を膨らげように使いたいものです▼その言葉を武器に、「排除と分断」を「信頼と連帯」に変えるまで!